

RIKKYO ESD JOURNAL



四月、輝く太陽。雪は消え、湿っぽい霞が空中を充たす。ずんくりにした馬が、重い耕作用の鋤を懸命に引っ張る。春のうちに、田んぼの準備を入念に。新たな播種と種の植え付けのために。

五月の初め、太陽が照りつけ始める。水は充たされ、田の面が、暁の光に光る。経験豊かな手が、暖まった大地に種を播いてゆく。鋭く尖った芽が、大地から濃く生い立っていくように。

五月の太陽の下に木々は芽吹き、田の水はぬるんでくる。大地から生えだすは伸びてゆく。植え付けられた植物が大地を着飾らせるように。奇妙な木製の杵、タワクを転かして。

八月、暑さは頂点を達し、土のような汗が滴り落ちる。女が、休む隙もいままはやく、棚田から棚田へと刈ってゆく。雑草が稲を覆ってしまっているように。静かな稲。